

コスモ・スクールうすだ



音楽会終了

6月21日、22日の2日間にわたり、新校初めての音楽会を開催しました。1日目は子ども達が鑑賞する音楽会、2日目は保護者の皆様に鑑賞いただく音楽会でした。

入学したばかりの1年生から、最上級の6年生まで、新たなクラスや学年で新たな仲間とともに学校生活を送ってきましたが、音楽会に向けた練習を経て、一段と団結力が強まりました。

合唱や合奏を通して、心をそろえ音をそろえることを学びました。これまでとは違う大人数の学年において、自分の役割を果たそうとする心も生まれました。

2日開催とした音楽会。この開催につきましても、保護者やPTA 評議員の皆様からいただいたご意見を参考にしながら、子ども達にとっての価値や意味を最優先に考え来年度の開催に活かしていきたいと考えています。



3年生 公民館学習

7月7日には、3年生の公民館学習を実施しました。俳句、囲碁、書道、体操、空手、絵手紙と、普段は地域の方の方が活動している生涯学習の各講座に分かれて体験学習をさせていただきました。地域講師の高い専門性に感銘を受け、わかりやすい指導と励ましの言葉をいただきました。各講座に対する思いや願いをお聞きする中で、生涯にわたる継続的な学習の素晴らしさや自己を高める価値について、3年生も気づくことができました。臼田地区では毎年恒例の公民館学習ですが、今年は新校での初めての活動であり、友との交流をさらに深める学習になりました。バスも手配してくださり、私たちの学習のためにご協力いただいたあいとびあの皆様、各講座の指導者の先生方、貴重な体験をさせていただきましたありがとうございました。



5年生 実り多き登山・キャンプ終了

7月19日、20日の2日間、5年生が登山・キャンプに行ってきました。今年の登山は、大河原峠から亀甲池、双子池、双子山山頂を通過して大河原峠に戻るコースです。

透明度の高い双子池に感動し、双子山の稜線を歩くときは山肌に沿って下から吹き上げる風に流される下からの雨を体験しました。事前に親子レクを兼ねて行った飯盒炊さん・カレー作りの学習を活かし、当日は見事なカレーライスを大自然の中いただきました。キャンプファイヤーを始めるときに雨に見舞われましたが、すぐ晴れて、思い切り楽しむこともできました。役割を果たし、苦しい時も声がけをし合い、互いに気遣う集団生活を体験したことは、大きな学びとなりました。



保護者の皆様へ

水難事故について

県内、そして県外で川遊びにより小学生が命を落としてしまう、いたたまれない事故が起こっています。学校でも子ども達だけで川へはいかないことを指導しますが、夏休み中の川や海での事故にはくれぐれもお気を付けください。川は表層と底付近で流れが大きく異なります。海の離岸流はなかなか気づかないことが多いです。水辺では児童から目を離すことなく、ご家族等で楽しい時間をお過ごしください。

自転車用ヘルメットの推奨

自転車乗車時のヘルメット着用が法律で努力義務化されたこととともない、「ヘルメットは安全が確認されたマーク表示があるものを使用すること」が推奨されています。現在、子どもたちが登下校時に着用している黄色いヘルメットは徒歩用であり、この基準を満たしていません。この機会に自転車乗車用ヘルメットの購入をご検討いただきますようお願いいたします。

校庭工事の完了

夏休み中に校庭工事が完了し二学期からいよいよ校庭が使用できるようになります。夏休み明けに竣工式を計画しておりますので、それまでの間は校庭への立ち入りをご遠慮ください。

緊急時の連絡

土日及び祝日、8/10～8/16の期間、学校には職員がおりません。連絡は以下にお願いします。

佐久市教育委員会 0267-62-3478
時間外は市役所宿直 0267-62-2111

明日から、夏休みです。学習は午前中の過ごしやすい時間に済ませ、きまりよい生活が送れることを期待しています。楽しく有意義な休みとなることを願っています。

(文責 教頭 鶴田)

白田小学校 〒385-0303 佐久市下小田切 1651
TEL0267-82-1651

校長室だより

幸せの反対

校長 井出 誠一

私には、困難に直面したとき、自分の非力や努力の足りなさを顧みる前に、ともすると自分の不遇を嘆く悪い癖がある。教師にとって、一番の幸せは、担任する子どもたちとの一体感が感じられるときである。その逆に、自分の思いが子どもたちに届かないときや子どもと思いが衝突するときには、とても辛く教師になった自分を後悔したりもした。そして自分が「幸せ」とは真逆のところにいるようにさえ感じた。

「井出さん、『幸せ』って何だい？」

初任の中学校に勤務していた頃、担任する子どもたちとの関わりに悩んでいた私を見かねた先輩の先生がそう問いかけてくださったことがある。

「『幸』っていう字を書いて裏返しにしてごらん。やっぱり『幸』になるだろう。上下逆さまにしてもやっぱり『幸』になる。『幸せ』ってというのは、そういうものだよ。」

当時は何を言われたのか経験浅はかな私には見当もつかなかったが、あれから三十年余りが経ち、今頃になってようやく先輩が言わんとしていたことが少しわかってきたような気がする。

不遇を嘆いても幸せにはなれない。困難さを受け入れ、非力を詫びながら努力することによってのみ『幸せ』は訪れる。自分の心の持ちよう一つで『幸せ』の反対も『幸せ』にすることができるのだと、先輩は教えてくださっていたのだと思う。

新校が開校して四ヶ月が経とうとしている。子どもたちは大きな環境の変化に適応し、元気に毎日を送っている。校舎に歓声が響き、教室には笑顔があふれている。しかし、そんな陰にあって、人知れず心を悩ませていた子はいなかっただろうか。あのときの私のように、今幸せだと思えない毎日を送ってきた子はいなかっただろうか。もしいたのなら、そんな子どもたちにエールを送りたい。

「今のその辛さは幸せの一手手前だよ。その先に必ず幸せなときがやってくるからね。」

明日から夏休み。学校の日常から少し離れて自分を見つめ直すよい機会である。その時間がすべての子どもたちにとって幸せを呼び込む一つの契機になればと願っている。